

作者名 マツイ ヒナコ
松井 日向子

作品名 光の模様

想定する空間

日の光が差し込む屋内の、
窓際や天窓のある部屋。

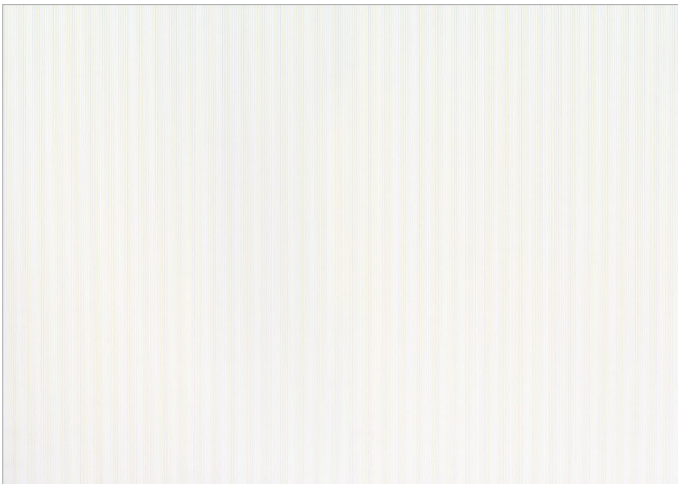
想定する人

家での暮らしにも自然のもたらす豊かさを
取り入れたいと考えるひと。

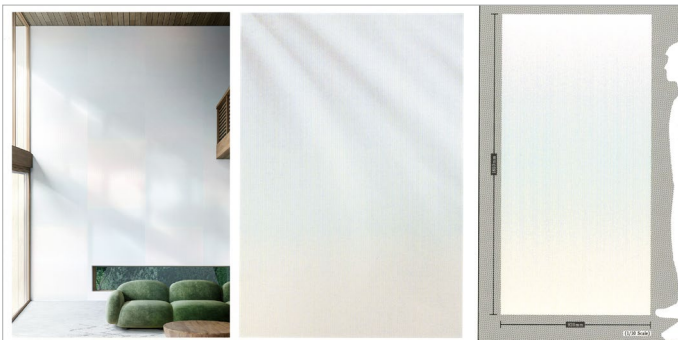
デザインコンセプト

家の中で過ごす時間が増え、太陽の光や、風の質感、空気の温度やにおいなどの自然の変化や、一日、一か月、一年といった時間の流れを、肌で感じる機微は少なくなりました。失われつつある、自然や時間が生み出す暮らしの機微。それらを感じ取るとする人の心、感性こそがこれからの暮らしを真に豊かにするのではないかと考えました。

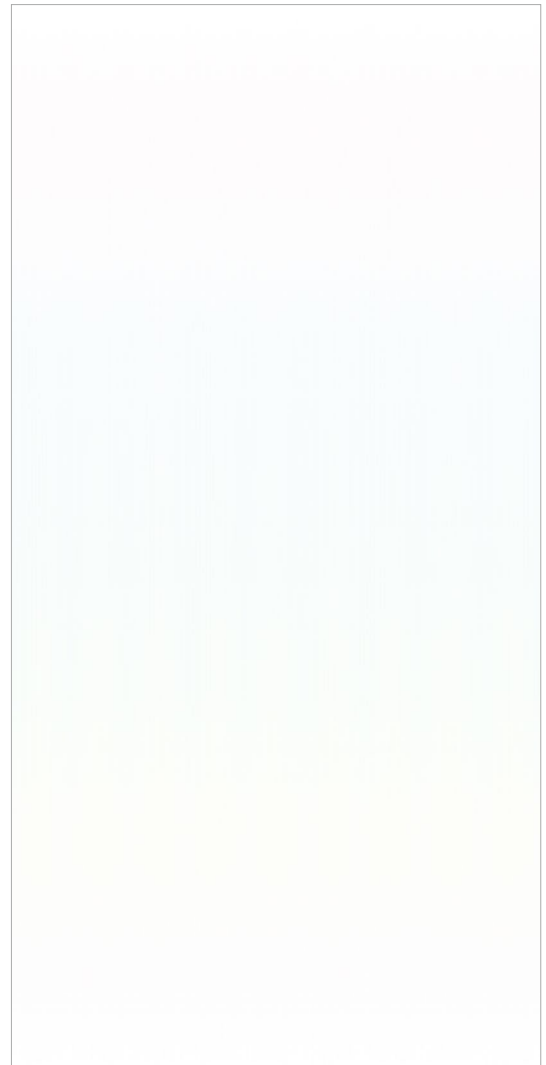
この作品は、日光による退色で表現を変化させる壁紙です。光が色の結合を解きはなつ現象「退色」は、ものづくりの場ではネガティブに捉えられることも少なくありませんが、一方で自然の生み出すゆっくりとした時の流れや、リズム、表情を感じさせます。それは、光によって生まれた色がもう一度光へ還っていくような、より循環的で持続的な現象にも感じられます。この模様はCMYKにおけるシアンとマゼンタの2つの成分でできた線とイエローとブラックの2つの成分でできた線の繰り返しで描かれています。退色の早さが異なる色同士を組み合わせ、グラデーションにすることで、日の当たる場所はだんだんと青が強くなっていくなどの変化を楽しむことができます。まるで光がうごめき、語りかけるような繊細な模様は、時間帯や場の光の色によっても見えてくる表情が変化し、またそれらを見つめるうちに、その空間にあるものや周りの景色の絶妙な色の違いに気づかせてくれます。壁紙は家の中で、人が見つけ、何かを感じ取ることのできる、メディアでありキャンバスのような役割を持つかもしれません。光の振る舞いが生み出すこの模様によって、人のみずみずしい心と、暮らしの持つ鮮やかさを、もう一度、繊細に感じ取る喜びを提案します。



デザイン画 A2



空間イメージ図



デザイン画 W920×H1850mm